

M28a 次期太陽周期活動の予測に向けて

今田晋亮、飯島陽久（名古屋大学）、堀田英之（千葉大学）、塩田大幸、加納大空、藤山雅士、草野完也（名古屋大学）

我々が生きる太陽地球圏の環境は太陽活動に起因して大きく変動することが知られており、幅広い宇宙利用と高度な情報化が進んだ現代社会において太陽地球圏の環境変動を予測することが非常に重要な課題となっている。現在、我々は「太陽地球圏環境予測：我々が生きる宇宙の理解とその変動に対応する社会基盤の形成」(PSTEP)という研究プロジェクトを推進しており、太陽地球圏環境予測という課題に組織的に取り組んでいる。このPSTEPプロジェクトの一環として、次期太陽サイクル(25)の活動度を予測することを目指している。これまで、世界的には様々な研究者が太陽周期予測研究に挑んできたが、残念ながら現在のところ確実な予測は3年前程度に限られている。そこで我々は、表面磁束輸送モデル(Surface Flux Transport code)の数値計算コードを開発し、ひので、SDOさらに地上観測データをインプットとして太陽極小期の極域磁場(サイクル24)を予測し、これまでよりも早い段階(5年前)での次期太陽サイクルを予測することを目指す。本講演では次期太陽周期活動予測研究計画の全体像を説明する。